

## 宮城県気仙沼向洋高等学校

「愛媛県被災地学校修学旅行支援事業に参加して」

宮城県気仙沼向洋高等学校 教諭 伊達一幸

本校の情報海洋科情報電子類型は「えひめ愛顔の助け合い基金」による「被災地学校修学旅行支援事業」を活用させていただき、平成25年1月10日（木）から13日（日）まで、1年生28名、2年生17名、専攻科生3名および引率教員4名の合計52名で愛媛県を訪問させていただきました。本校は東日本大震災の津波により校舎が全壊したため、生徒は現在も近隣高校のグラウンドに建てたプレハブの仮設校舎で学校生活を送っています。震災当初と比較し、施設や設備が整ってきているものの震災前の状況には至っておらず、他校との交流が持ちづらい状況の中で、今回のような機会をいただいた事は、生徒のみならず教員にとっても非常に有意義な経験であり、言葉に表せないほど深く感謝しております。

今回の修学旅行支援事業において本校は、3泊4日の日程を愛媛県内での研修・見学に充てさせていただき、宇和島水産高校様との交流会を始め、今治造船株式会社様や伯方塩業株式会社様、遊子漁協様、水産研究試験センター様などの見学や、愛媛大学の学生様の案内による松山市内の観光など、非常に密度の濃い内容で愛媛県の産業や地理・伝統文化に触れさせていただくことができました。このことは訪問から一年以上経った現在でも話題に上ることがあり、生徒にとっても良い思い出となっています。

私たちは震災で多くのものを失いましたが、復興に向け感謝する心と力強い決意を持った若い力がそこにはありました。帰路に着く際に、空港で本校の代表生徒が述べた「気仙沼は復興が始まったばかりですが、私たちが復興の担い手となり、ご支援をいただいた方々へ恩返しができるように頑張っていき、いつの日か復興した気仙沼を見ていただきたい」との言葉に、我々教員も決意を新たにしましたところ です。

以下に生徒の感想を一部紹介させていただきます。

宇和島水産高校では、えひめ丸の悲しい事故について概要をお聞きし、胸が痛みました。同じ水産系の高校として、このような悲惨な事故は二度と起こって欲しくないと思いました。また、この日のために宇和島水産高校の皆さんが大変な準備をして迎えて下さったことに感激しました。

1年 佐藤 裕貴

坂の上の雲ミュージアムで行われた、松山北高校コーラス部さんの合唱では、私たちの高校の校歌を歌っていただき感激しました。他校の校歌を覚えることは簡単なことではないと思いますが、貴重な時間を割いて練習していただいた事に感謝します。また復興支援ソングの「花は咲く」を会場全体で歌うことができ、必ず復興してみせるという目標へ前向きに進んでいこうと強く誓いました。

2年 岡田 連也

私たちの生活は徐々に元の状態に戻って来ていますが、それも全国のたくさんの方々からの支援と応援があるからだと思います。私たちはこの恩を絶対に忘れずに生活していかなければならないと改めて実感しています。また、震災に真剣に向き合い、復興に向け頑張っている私たちの学校生活や地域での活動を愛媛県の皆さんにも知っていただけたらと思います。

1年 佐藤 茉央



